

くるみ

菊まつりのご案内
午の日のご案内



平成28年

盛夏

ごあいさつ

当社の御祭神、宇迦之御魂神の父神にあたる素戔鳴尊がクシナダ姫を妻に迎えて、新居を定めた際に詠んだ「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」が和歌の始まりとされています。

神道には、他の宗教のような教典はありませんが、私たちの祖先が書き残した古典の中に神の道を探り、生き方の指針にしようということで大切にしているものがあります。神道古典と言われるもので、古事記や日本書紀と並んで、そのうちのひとつとされているのが万葉集です。江戸時代に、儒教（＝からごころ）や仏教（＝ほとけごころ）の影響を受ける以前の日本の精神（＝やまとごころ）を明らかにしようという学問が興り、日本最古の歌集である万葉集は古代日本人の人生観や季節感を知る上で貴重な文献として研究の対象とされていました。

万葉集はまことの精神が表れた文学ですが、神道はまことの心を大切にし、祭祀はまことをもって執り行います。まこととは偽りのない、本来の、自然の、ありのままの（＝ま・こと（＝事柄、言葉）を意味します。万葉の歌人たちは日々の暮らしや人生の中で感じたり味わったことを飾らずに、ありのままに、その心情を言葉にして歌を詠んでいます。その清らかさが明き、清き、直き、正しき心へとつながっています。

当社の拝殿前に樹齢四百年に及ぶ、県の天然記念物に指定されている藤樹があります。万葉人たちがたわわに咲く藤の花を見て感じたことはその内にこもる霊の強い働きで、藤の花を取って着物の袖に入れたり、花の髪飾りにしていたのはその力を身に付着させようとするものでした。長く垂れ下がった房は稲穂のようでもあり、豊かな実りは豊作の予兆ともとらえられていたようです。稲は稲魂の作用により実りがもたらされますが、豊作のめでたい前兆でもある藤の花に近い、楼門前の右側にこの度、万葉集の歌碑が建てられることになりました。歌に詠まれている菊は秋を代表する花であり、その漢字に米の文字が含まれていることから分かりますように菊の花弁はたくさん米粒が手のひらの中で丸まったような形をしており、豊作を象徴するもので稲荷神社にふさわしい花です。

御祭神に縁の深い和歌が、稲の豊作を連想させるように咲く藤の花と秋の豊かな実りを示すように見事に咲く菊の花と共にあるたたずまいは実に意味深いものがございます。

国学を大成させた本居宣長は歌を詠まないと、いにしえの人々の心は分からないと言いました。ぜひ当社の様々な祭事に参列しながら、美しい調べにのせた和歌を詠み、やまとごころを感じてみてはいかがでしょうか。

笠間稲荷神社 宮司 塙東男

鳥居の再建にご協力をお願い



完成予想図

東日本大震災の発生より五年余りが経過しました。

御本殿を始め拝殿・鳥居・玉垣・石碑など各所に甚大な被害を受けた当社でも、修復工事を進めてまいり多くの修繕を終える事が出来ました。

只今、鳥居の再建に全力を尽くしております。

つきましては、鳥居再建のために皆様方のご支援ご奉賛を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

◎ご奉賛について

一、ご奉賛は、ご参拝のおりか現金書留、郵便振替、銀行振込のいずれでも結構です。但しお振込の場合、ご本人様の住所等の確認が出来ませんので、神社までご連絡下さいます様よろしくお願い申し上げます。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納し永く顕彰致します。

◎振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号 〇〇三五〇・二・六五〇八

宗教法人笠間稲荷神社

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店(普) 一一八二七二七

宗教法人笠間稲荷神社

代表役員 埴 東男

お問い合わせ先

笠間稲荷神社 復興奉賛会

TEL 〇二九六―七三―〇〇〇一



事比羅祭・末社祭

八月一日には、境内に鎮座する「事比羅神社」・「末社（境内神社）」の例祭が斎行されます。例祭はそれぞれの神社が鎮座された日に斎行される祭典です。この日には日頃から各お社を崇敬されている氏子、崇敬者が集い祭典が執り行われます。

この祭典にはどなたでもご自由にご参列頂けます。それぞれの神社が鎮座された良き日に、それぞれの神社の御神徳を頂いてみては如何でしょうか。

祭事予定 八月

一日 本社御田植祭

事比羅祭

末社祭

二日 旧大祓式

七日 献燈祭

献燈祭

献燈祭は、我々の生活に欠かすことの出来ない火（灯）に感謝し、また火が災いの元とならぬよう祈願すると共に、我々の祖先の御霊を慰めるお祭りです。

当日は、境内の石燈籠や釣燈籠そして皆々様から奉納される大小様々な行燈全てに灯がともされます。夏の暑さが和らぐ夕刻の浄闇に浮かぶ灯りは風情豊かであり、境内は夜遅くまで参拝者で賑わいます。

また、行燈の奉納は随時受け付けております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

献燈料 大行燈：一万円

中行燈：五千円

小行燈：千円



中秋祭

末社内の月読神社の祭典で、旧暦の八月十五日に斎行致します。中秋の名月を見られる日に斎行される祭典であり、中秋の名月を観賞する風俗は平安時代に伝来したと伝われます。農民の間では農耕行事と結びつき、収穫の感謝祭としての意味を持ちました。



祭事予定 九月

十五日 中秋祭

二十二日 秋季皇霊祭

二十二日 小笠原流弓術奉納式

祭事予定 十月

十五日 菊まつり開場式

十七日 神嘗奉祝祭

十七日～十九日 本宮祭

二十八日 尚齒祭



神事流鏝馬

当社の神事流鏝馬は、稲荷大神様に縁の深い農作物の豊凶を占うと共に、日本の伝統文化で現存する流派である、小笠原流の古儀古術を保存する為に行われています。

当日は、弓馬術礼法小笠原教場一門をはじめ、氏子や古武道振興会の有志、地元小学生等の奉仕により執り行われます。境内での安全祈願、奉納奉告祭の後、笠間藩弓馬訓練場跡である笠間小学校前まで古式に則り列を組み進み、奉納されます。

舞楽祭

当日は境内に舞殿が設けられ、舞人が神前に舞を奉納致します。

【曲目】

神楽 「浦安の舞」「悠久の舞」

祭祀舞 「朝日舞」「豊栄の舞」

舞楽 「迦陵頻」

祭事予定 十一月

三日 明治祭

神事流鏑馬

十五日 霜月祭

二十日 舞楽祭

二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭

新嘗祭・献穀献繭祭

「新嘗祭（にいなめさい）」は、宮中においてその年の新穀を神々に供え、天皇陛下がその年の新穀を初めて召し上げられる祭典です。全国の各神社においても新穀を神前に供え祭祀が行われます。当社では、「献穀献繭祭」と称し、新穀、新繭が神前に供えられる他に、献穀品、献繭品の品評会が実施されております。

祭事予定 十二月

二十一日 御火焚串炎上祭

二十三日 天長祭

二十八日 鹿島祓

三十一日 大祓式

鹿島祓

「鹿島祓」は、当社独特の祓具を用いて行うお祓いです。これは、現在の宮司家が鹿島神宮より当社に迎え入れられた際に、鹿島神宮の祭式を当社にもたらしたことに起源します。当日は、拝殿、楼門を始め社務所内各部屋に至るまでお祓いをします。



正月祈禱案内

平成二十九年の新春初祈禱を受け付けております。
昇殿参拝をし、新年の御神札を受けられまして、
気持ち新たに神棚にお祀り致しましょう。

◆ 祈禱時間

一月一日 ○時～五時、

七時～十七時

二・三日 八時～十七時

四～七日 八時～十六時

十六日以降 七時四十五分～十六時

◆ 祈 願

- ・ 五穀豊穰
 - ・ 病氣平癒
 - ・ 家内安全
 - ・ 開運招福
 - ・ 商売繁栄
 - ・ 身体健全
 - ・ 交通安全
 - ・ 学業成就
 - ・ 厄除
 - ・ 合格祈願
 - ・ 方位除
- 等

◆ 新春祈禱申込

新春初祈禱の当日受付は大変混み
合いますので、FAX、インターネッ
トの事前予約をご利用ください。

正月前にお早めにお申し込み下さ
い。

FAX ▼ 0296-73-0002

◎ ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

お知らせ

正月期間中は、当社参集殿前駐車場は
使用出来ません。駐車場の詳細はホーム
ページをご覧ください。

また、交通規制をしておりますので、
ご理解、ご協力をお願い致します。



日本最古

第109回
笠間の菊まつり

菊まつり

日本三大稲荷
笠間稲荷神社

大菊人形展

菊人形展

笠間に咲き誇る

日本最古の菊の祭典

平成28年
10月15日(土) ~ 11月23日(水)

8時半 ~ 16時半(入場は16時まで)



菊人形展
100円
割引券

有効期限 平成28年11月23日
※他の割引券とは併用できません

午の日のご案内

当社の御祭神である宇迦之御魂神様が京都の伏見稲荷大社にご降臨されたのが二月の最初の午の日であったことから、その日をご縁日として全国の稲荷神社では、「初午祭」が行われております。「初午祭」は、すべてのものの蘇りと五穀の豊穰を願って行うお祭りです。

午は動物の馬に通じ、農業を行うときに最も重要な役割を担うと共に、馬は神に寵愛されたものとして、人々は馬を通して神の霊力を感じ、午の日を神聖な日と考えるようになりました。方角では南、時間では昼の十二時・正午を表し、陽気の盛んなことを示しています。

また、古くから馬は神の乗り物とされており、生きた馬を神馬（しんめ）として神へ献上する風習がありました。しかし、馬は高価で奉納することが難しい為、後に木製や土製の馬で代用されるようになり、更に板に描いた馬の絵で代えられるようになりました。それが今では全国各地の神社で授与されている「絵馬」の起りです。

午の日は、二月に限らず毎月ございます。その月の一回目の午の日を「一の午」、二回目の午の日を「二の午」、三回目の午の日を「三の午」と言います。参社の際には稲荷社において縁起の良い午の日に「五穀豊穰」「商売繁盛」等のご祈願をされることをお勧め致します。また、午の日は、十二日に一度の周期で巡って参ります。ご参拝・御祈祷のお日にちを決められる際に、下記の午の日の早見表をご参考にされてみてはいかがでしょうか。

平成二十九年												平成二十八年					午の日早見表
十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月	九月	八月	
九日、二十一日	三日、十五日、二十七日	十日、二十二日	四日、十六日、二十八日	十一日、二十三日	六日、十八日、三十日	十二日、二十四日	七日、十九日、三十一日	一日、十三日、二十五日	八日、二十日	十二日、二十四日	七日、十九日、三十一日	二日、十四日、二十六日	八日、二十日	三日、十五日、二十七日	九日、二十一日	四日、十六日、二十八日	十一日、二十三日

笠間稲荷神社日誌



平成二十八年

赤字：祭典
青字：結婚式
黒字：講中参拝・正式参拝
緑字：行事

◆一月

- 一日 歳旦祭
茨城日産自動車㈱
八千代講・高梨講
藤井講・赤坂講
- 三日 元始祭
小松稲荷講
根崎解体工事㈱
- 四日 明誠講・野尻笠間講
ヤマト運輸㈱茨城主管支店
㈱サンライフコーポレーション
東芝ライテック㈱鹿沼工場
- 五日 新始祭
JR水戸鉄道サービス㈱
- 六日 笹本笠間稲荷講・海上芋苗組合
昭和天皇祭遥拝式
- 七日 野田市信栄講
ALSO K茨城㈱
- 八日 初事比羅祭
穂波会・㈱横山喜惣治商店
- 十一日 下野小山須賀笠間稲荷講
- 十四日 尖閣諸島安全祈願祭



- 十五日 古札炎上祭
㈱秋田土木
- 十六日 東京平和講・嶋田商会
- 十七日 石井工業信友会・柏崎講
- 十八日 喜多方笠間講
- 二十一日 山高野講
- 二十二日 御本殿畳奉納奉告祭
東宝上町講
- 二十三日 笠間稲荷神社敬神婦人会 会長堀菊枝様
㈱ナテック
- 二十四日 那須塩原市商工会高林支部
全建栃建労働支部・キャラエーピー㈱
- 二十五日 初天神祭
神宮大麻暦頒布終了奉告祭
幸手講
- 二十六日 天皇皇后両陛下比律賓共和国御渡航行幸啓安泰祈願祭
防災訓練
- 二十七日 堀の内講・野中組稲荷講
笠間稲荷門前講
- 三十日 麻生笠間講・正徳講
- 三十一日 天皇皇后両陛下比律賓共和国御渡航還幸啓奉告祭
熊野三社大神氏子会 総代本木信夫様
下三ヶ尾笠間講

◆二月

- 二日 太木講
- 三日 節分追儺式
相川七瀬様
東関大五郎様
振分精彦様
撒豆行事司奉仕
笠間友部街商組合
- 四日 石の葉講・都賀町講
船形観光友の会・大山笠間講
- 六日 初午大祭
並木町笠間講・下古山講・川上実行組合
取手市機械工業会・旭市奉賛会
網戸中宿稲荷講・弥栄講
- 七日 北方領土返還祈願祭
旧大祓式
栃木市笠間会・野田市蕃昌笠間稲荷講
- 八日 旧歳旦祭
針供養祭
東京八方講
房地組合・サカイ会祈願会
- 九日 紀元祭
- 十一日 初甲子祭
- 十二日



十四日 祈年祭・初穂講大祭

鶴ヶ丸講

中野台笠間講

十六日 東京弥栄講

船形笠間稲荷講

十八日 豊田稲荷講

二十一日 中峰笠間講

下落合笠間稲荷講

元町笠間稲荷講

二十二日 野田七親講

県北県央地域農業三士 支部長武藤豊様

二十八日 大相模笠間講・川口商栄講



◆三月

一日 貴船笠間講

サンコー㈱

二日 当社責任役員会

総代会

四日 鳥居建立起工式

美保神社 宮司横山陽之様

井沼方講

五日 結婚式 吉田家・根本家

T O S S 五色百人一首協会 理事長根本修成様

六日 笠間稲荷高柳講

八日 笠間市地域女性団体連絡会会長長谷川美枝子様

むつみ会 代表滝澤安子様・原和枝様



十二日 結婚式 川崎家・寺門家

十三日 旧初午大祭

絵馬祭

絵馬コンクール表彰式

宮戸神社奉賛会 会長高橋良昌様

向町笠間講・阿字ヶ浦西久保稲荷講

心和講・秋山講

十七日 西会津笠間稲荷神社講

二十日 春季皇霊祭遥拝式

二十一日 柳沢胡桃下稲荷講

二十七日 幸栄親睦会

三十日 浦和辻神仰会

◆四月

一日 新入職員入社式

二日 結婚式 杉浦家・黒澤家

三日 神武天皇祭遥拝式

笠間稲荷日の出谷の入講

九日 例大祭

東京月島笠間稲荷講

十日 東京笠間講

十二日 甲子祭

十六日 東京丸佐講

二十四日 東京紋三郎講

二十七日 秩父親和講

二十九日 昭和祭



◆五月

八日 結婚式 湊家・飯野家

東京笠間報恩講

十日 御田植祭

一四日 東京胡桃講

一五日 小鹿野笠間講

一六日 中華人民共和国 朱育成様

二十日 講社大祭

二十二日 結婚式 和久家・小又家

二十九日 長江建材工業㈱

◆六月

四日 日本製紙㈱ 勿来工場

五日 植樹祭奉告祭

結婚式 木村家・岩田家

東京あづま講

十二日 高崎神社敬神会 会長田邊郁也様

十九日 西秩父笠間講

池上商工共栄会

二十六日 車の茅の輪くぐり

三十日 大祓式



日本の心を大切に、思い出に残る神前結婚式

笠間稲荷神社の御祭神・宇迦之御魂神は、生命の根源を掌る「いのち」の根の神様でございます。神前結婚式は、代々受け継がれてきた「いのち」を、これより後もつないでいく約束をする、新郎新婦お二人の人生の大切な節目です。



稲荷大神様の御加護の下、ご両家の絆を固く結び、
お二人の末永いお幸せを心よりお祈り申し上げます



- 初穂料：亀式5万円(雅楽生演奏1名)、鶴式10万円(雅楽生演奏3名、巫女舞あり)
挙式場：社務所内・儀式殿(見学可)、拝殿挙式は斎行致していません。
設備：披露宴・パーティー会場は併設していません。控え室ご両家各1室、更衣室1室使用可。
撮影：境内撮影自由、挙式中の撮影は一部制限があります。撮影用の椅子等の貸出は不可。
衣装等：和装・洋装の決まりはありません。衣装はご自身でご用意下さい。
参列者：基本的に親族のみ可、新郎新婦含む30名以内は規定初穂料にて斎行、31名以上は1名毎500円増。
挙式参列可能人数は両家各18名まで、直会は60名程度まで対応可。いずれも要相談。
挙式時間：亀式1時間、鶴式1時間15分程度。祭典日を除き9時～15時の間の希望時間より斎行可。

<お問い合わせ> 笠間稲荷神社社務所 崇敬係(すうけいかかり)
☎0296(73)0001 9:00～16:00

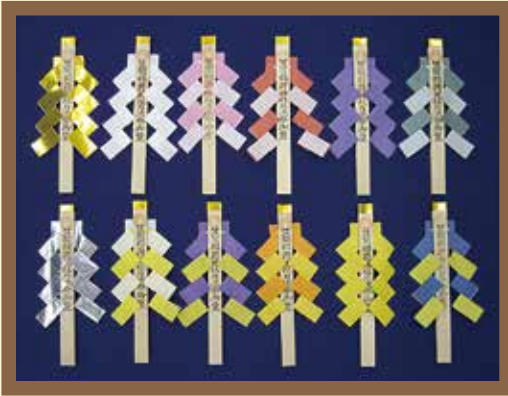
結婚式のお申し込み・式場のご見学・ご相談等でご来社の際は、前日までにご連絡下さい。
祭事等の都合によりご案内致しかねる場合がございますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

笠間稲荷神社 ご案内

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感じ、新たな御神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



祈祷案内 交通安全祈祷

日々の乗り物による移動が安全でありますよう、当社では交通安全の御祈祷を行っております。また、お車やバイクなどの乗り物に対するお祓いも行っております。大神様の御加護をいただきまして、大切な乗り物、また同乗者の方々に災いが起こらぬよう当社でお祓いをさせていただきますか。がでしようか。

(初穂料 五千円より)

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談ください。ご奉納頂いた方の御芳名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



新入職員からみた

笠間稲荷神社の魅力とは

当社の御祭神「宇迦之御魂神」は五穀・食物を司る命の根の神様であります。

神職 梶谷 伊勢道

日本人と稲作の歴史は古く、少なくとも三千年以上前からお米が作られていたことが明らかになっていきます。稲作に関しまして当社においても、五月にその年の豊作を祈願する「御田植祭」を執り行っております。当日は、

笠間稲荷神社の神饌田において宮司以下神職巫女、地元の中学生、高校生、高生、御田植えの儀で奏される「稲荷舞」は当社特有の舞であり、見所の一つとなります。

笠間稲荷神社は、豊作を願い、無事を祈り、恵みに対して感謝をする日本人の生涯に寄り添うかたちで存在する精神的支柱としての役割が大きくあるのだと感じ、日本人が長い歴史の中受け継いできた、稲作の伝統を守り先の時代に繋げていくことが我々神職の勤めであると思っています。



晴れて笠間稲荷神社の職員としてご奉仕させていただくようになり、早三ヶ月を迎えようとしております。参道を通り楼門を潜った先には堂々としたお宮が目に見え、境内に足を踏み入れると、清らかな空気が流れ、不思議と気持ちが落ち着くと同時に、心が真っ白になる感覚を覚えました。

神職 上野 貞嘉

笠間稲荷神社では、季節ごとに様々なお祭りや行事が執り行われます。中でも十月中旬から十一月下旬にかけて開催される「菊まつり」では、境内に菊の花が飾り付けられ、御本殿後方の会場では菊人形展が開かれます。ここでは、その年の大河ドラマをテーマにした菊人形展が開催されるため、美しい菊の花と同時に、ドラマの世界観を楽しみながら観覧することが魅力となっております。

神社の根本的思想は、「神の道」つまり「神道（しんどう）」であります。「神道」にはあらゆるものが「つながり」で結びついているという考えがあり、私がこうして笠間稲荷神社でご奉仕させていただけることは、稲荷大神様による導きの「つながりの縁」であると恐れ多くも感じております。人と人とのつながりも、神様によって与えていただいた「縁」であると感じ、常に感謝の気持ちを忘れることなく今後ともご奉仕に励み、国の安泰、人々の安全をお祈り申し上げます。

神道

四季と歴史の趣

巫女 木村 裕美子

当社では、四季折々の花が境内を彩っており、特に四月末から五月上旬にかけて咲く藤の花はとても美しいです。この藤の花は樹齢四百年にも及び、県の天然記念物にも指定されております。二株の内一本の八重藤は濃紫色の花がぶどうの房のように集合して咲き、種子をつけない珍しい種類であります。また、当社が鎮座する笠間市は、「笠間焼」が有名であり、笠間稲荷神社御本殿後方に建つ美術館には、その「笠間焼」が影響を受けたという中世六古窯の古陶器を展示しており入館し、見学できるようなっております。主に陶器類が多く展示されており、当時の趣を感じ取ることができます。

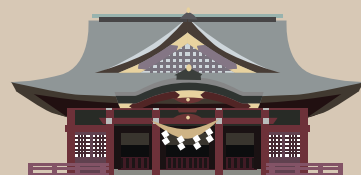
このような魅力あふれる笠間稲荷神社にて、ご奉仕させていただけることを光栄に思い、一日でも早く巫女として恥じることはないよう努めていく所存でございます。



七福神・大黒天

巫女 瀬端 春菜

年間約三百五十万人もの人々がご参拝に訪れる当社には、様々な魅力がございます。笠間稲荷神社では、境内東側に大黒天座像が安置されております。当社は、八つの社寺からなる常陸国七福神の霊場会のひとつであり、打出の小槌で有名な大黒天がお祀りされております。大黒天は打出の小槌と大きな袋を持ったその姿から、幸福と財宝を人々に分け与える神様として多くの人々に親しまれております。甲子の日には「甲子祭」が斎行され、甲子とは、氣が栄えることをいい、大黒天の功徳をいただけるお祭りであります。茨城県内八つの社寺を巡る常陸国七福神詣りは「巡拝路が日本一長い霊場会」というのが最大の特徴となっております。当社にお参りの際は、常陸国七福神詣りも魅力の一つとなっておりますので、是非巡ってみてはいかがでしょうか。



神社のいろは

Q 鈴は何のために鳴らすのですか？

A 社頭の鈴は、その清々しい音色で参拝者を敬虔な気持ちにし、それとともに参拝者を祓い清め、神霊の発動を願うものと考えられています。伊勢の神宮をはじめ、社頭の鈴が無い神社も多く存在します。当社では、昇殿参拝されている崇敬者の皆様に配慮して取り付けておりません。

Q 神社のお参りの仕方を教えてください。

A 神社をお参りする際にまずくぐるものが鳥居です。鳥居をくぐる前には軽く一礼をします。参道の中央は神様の通り道ですので、歩く際には中央は避けます。境内に入ったら手水舎で身を清めましょう。

拝礼をする際には、まず賽銭をあげ、鈴を鳴らします。その後、二度深くお辞儀をし、二度拍手をし、もう一度お辞儀をします。二拝二拍手一拝の作法でご参拝ください。神社によっては二拝四拍手一拝といった作法を行う所もございます。



Q お賽銭は投げてはいけないのですか？

A 投げ入れて頂いて結構です。供物を投げてお供えすることには、土地の神様に対するお供えや、お祓いの意味があると考えられています。

ただし、ご神前での拝礼に伴った行為ですので、賽銭箱に投げ入れる際には乱暴にせず、丁寧な所作を心がけましょう。

また、お賽銭は神様への感謝の気持ちを表すお供え物です。お参りの際は、お願い事をするばかりでなく、日々の感謝の気持ちををお伝え頂きたいと思っています。

その他、ご質問等ございましたら、神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所

☎0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.37 平成28年6月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001(代) FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。